

## 日本統計学会第68回大会

日本統計学会（会長：三浦由己・駿河台大学教授）の第68回大会（大会運営理事：橋本智雄・北海道大学教授，プログラム編成委員長：村上征勝・統計数理研究所部長）が2000年7月25日（火）～28日（金）の4日間にわたって札幌市の北海道大学で開かれた。7月25日（火）の午前には「非線形多次元データ解析入門」（講師：水田正弘・北海道大学，山本義郎・北海道大学），午後には「金融工学と統計分析」（講師：三浦良造・一橋大学，大山慎吾・一橋大学）とそれぞれ題されたチュートリアル・セミナー（担当理事：永田靖・早稲田大学）が開かれた。翌26日（木）から28日（土）の午後にかけて52のセッションで研究報告会が開催されて約250件の報告がなされた。学会の性格上，人口に関連する報告が特に官庁統計に関するセッションで少なからず行われたほか，本年は28日午前に以下の2つの「人口統計」セッションで9報告がなされた。

「人口統計(1)」 座長：小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1 大久保正一（日本大学）「敗戦思春期世代の死亡(3)」
- 2 大久保正一（日本大学）「敗戦思春期世代の死因(1)」
- 3 岸 智子（大妻女子大学）「家族政策と人口動態 保育施設数と出生率との因果関係」
- 4 廣嶋清志（島根大学）「近年の合計特殊出生率低下のコーホート変数による要因分解」
- 5 松浦弘幸（政策研究大学院大学），中野正博（産業医科大学），藤正 巖（政策研究大学院大学）  
「人口推計への社会生物学的方法の導入」

「人口統計(2)」 座長：豊田 敬（法政大学）

- 1 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所），Jean-Louis Rallu（フランス国立人口研究所）「Union Formation in Japan and France」
- 2 坂西明子（奈良県立商科大学）「兵庫県の人口移動について」
- 3 森 博美（法政大学）「ICD10における自動車交通事故死者数の試算」
- 4 Syeda Shahanara Huq（総合研究大学院大学），石黒真木夫（統計数理研究所）「Bayesian analysis on the historical behavior of unmet need for contraception in Bangladesh」

なお，2001年大会はソウルでの国際統計協会大会やそのサテライト会議との関係で9月1～4日に西南学院大学で開催されることになっており，さらに国際色が豊かになることが期待される。

（小島 宏記）

## 第10回 日本家族社会学会大会

第10回日本家族社会学会大会は，東北学院大学，泉キャンパスにおいて9月8日～9日の両日開催された。自由報告の中には老親扶養や成人子の親子関係，アジアの家族といったテーマが目立ち，盛況であった。家族史のセッションでは，近世日本の家の連続性が，これまで想定されていたような期間よりも短かったこと（平井昌子），日本の隠居は北欧・中欧のように，跡取りの結婚を機にしておこなうものではなかったこと（落合恵美子），などの知見が紹介された。また日本家族社会学会が主体となって実施した全国家族調査（NFR98）のデータを分析したセッションもあり，家族認知の条件（西野理子）や家族におけるストレイン（緊張状態）の分析（西村純子），結婚を躊躇する集団の特定（加藤